下松市立花岡小学校

第１学年　国語科学習指導案

指導者　　岡　田　陽　子
有　田　枝里子

研究主題
自分の思いや考えを進んで表現できる子どもの育成（第１年次）
～　基礎・基本の定着をめざした国語科の授業の工夫　～

１　**単元名**　　いろいろなおはなしをよもう「おとうとねずみ　チロ」（東京書籍）

２　**単元について**

○児童について

本学級の児童（男子13名、女子13名）は、素直で、学習に対して意欲的に取り組むことができる。担任が、入学後から週に一度行っている読み聞かせの時間を好み、一生懸命挿絵を見ながら、集中して話を聞いている。自分で本を読むことに対しても意欲的であり、進んで読書に取り組んでいる。５月から読んだ本の題名を「本はともだちカード」に記入しており、すでに100冊以上の本を読破した児童もいる。２学期からは、朝の会の時間に週に１度フリートークを行っている。この取組の中で、自分のことを話す児童が少しずつ増えてきている。併せて、連絡帳に、その日心に残ったことを５分間で書き表すことも始めている。その結果、少しずつだが、自分の思いを話したり、文章で表したりすることができるようになってきている。家庭では、音読カードを用い、音読練習に取り組んでいる。保護者の協力もあり、毎日継続して取り組むことができ、音読が上手になってきた。10月に学習した物語文「サラダで　げんき」（角野栄子作、東京書籍）では、音読劇をすることを単元全体の目標として取り組んだ。その過程において、音読練習に励み、登場人物の行動を動作化したり、会話文を工夫したりしながら音読することができるようになってきた。しかし、叙述を根拠として、場面の様子や登場人物の心情を想像することは、難しい児童が多い。このような本学級の児童が、叙述に基づいた読みを友達と交流する学習に取り組むことは、想像を広げながら読書をしようとする意欲が高まることにつながると考える。

○単元について

本単元は、「おとうとねずみ　チロ」（森山　京作、東京書籍）を教材文とし、様子を思い浮かべながら物語を読む力を付けるとともに、いろいろな物語へと読み広げていくことで、楽しんで読書しようとする態度を育てることをねらいとしている。学習指導要領の内容「読むこと」のウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」、オ「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」に関連している。教材文「おとうとねずみ　チロ」は、主人公チロの行動や会話に気持ちの変化が表れていて、１年生の児童が様子を想像しながら読むのにふさわしい物語である。チロになったつもりで行動を動作化したり、会話を音読したりしながら、物語の叙述を丁寧に読み、場面の様子を豊かに想像する力を養っていきたい。また、作品における心に残ったこと、おもしろかったところを「おはなしカード」に書き、楽しさやおもしろさを「おすすめ☆」として数値化したり、友達と交流したりすることにより、その本を「読んでみたい」という思いを引き出していきたいと考え、本単元を設定した。

○指導にあたっては、次の４つの視点でねらいにせまっていきたい。

視点①　進んで表現しようとする意欲を育てるための工夫

自分の思いや考えを進んで表現するためには、児童の一人ひとりの意欲を育てることが大切である。また、単元全体が児童にとって魅力のあるものとなるよう工夫する。

・単元の導入において、森山 京作「おとうとねずみ　チロ」の他の章の読み聞かせを行ったり、挿絵を見せたりすることにより、単元全体への興味・関心を高める。その後、教材文を紹介することにより、「読みたい」という意欲付けを行う。
・学習に対する見通しをもたせるために、読み聞かせをした本の中から、教師の書いた「おはなしカード」を紹介する。「おはなしカード」には、お気に入りの叙述と自分の感想、作品のおもしろさや楽しさを数値化した「おすすめ☆」を単元を通して書くことを具体的に伝えるようにする。また、この「おはなしカード」は、教室に準備した「おはなしの木」として掲示することを伝える。このことにより、「おはなしカード」のねらいや方法が分かり、取組への意欲を高めることができると考える。

視点②　基礎・基本の定着を図るための工夫

１年生としての基礎・基本を定着することができるようにする。そのため、書き込み、動作化など新しい学び方を取り入れる場合は、最初は、クラス全体で指導し、少しずつ一人学びの時間に取り入れるなどして、児童一人でも取り組むことができるようにしていく。
・児童一人ひとりの「読む」力の定着を図るために、「丁寧に読むこと」に取り組む。「だれが」「どうした」という主述の関係に目を向けさせることにより、教材文に書かれていることを正しく読み取ることができるようにさせる。
・場面の様子やチロの行動が分かる叙述に赤線を引き、自分の考えの書き込みをさせる。また、疑問に思った叙述や友達に聞いてみたい叙述については、青線を引き、書き込みをさせる。赤線や青線を使うことにより、視覚的に自分の読みの状態を判断できるようにさせる。そして、疑問や友達に聞いてみたいことについては、その都度全員で解決できるようにさせ、その後、叙述に基づいたチロの行動の動作化を通して、チロになりきり、気持ちを想像することができるようにさせたい。

視点③　仲間とのかかわらせ方の工夫

「進んで表現する場」の一つが、仲間との交流の時間と考える。児童にとっても、学習内容の定着や深まりをめざす上で、効果のあるかかわらせ方を工夫する。
・話合い活動に取り組む前提として、自分の考えをもつことが大切である。自分の考えを書く一人学びの時間を設定し、自分なりの読みをワークシートに書き込んだ後、仲間と交流するようにする。
・互いの考えを伝え合う機会を増やしたり、自分の考えを伝える練習をしたりするために、一人学びの後、ペアや３人組による意見交流の場を設ける。少人数で交流することにより、クラス全体で発表するときの抵抗感を少なくすることができると考える。また、ペアの友達の意見を価値付けたり、自分の考えを説明させたりすることを経験させるようにする。このことを通して、他者の思いを理解し、さまざまな感じ方を交流する楽しさを味わわせたい。

視点④　振り返り活動の工夫

振り返り活動の場は、本時の学習が凝縮された内容が表現される場として捉える。友達と交流することを通して、より高まった内容が振り返りの中に児童の言葉として表現できるよう、工夫する。
・本時で学んだことや心に残った友達の意見、「お気に入りの叙述」を書いて、本時の学習のまとめをすることができるようにする。また、一人ひとりの振り返りに、教師が言葉を添えることにより、個々の学びを価値付け、次時への意欲につなげたい。
・友達のよさを記した内容については、教師が紹介したり、児童に発表させたりすることにより、ともに学ぶよさを感じることができるようにする。

３　単元の目標

○　物語の展開を楽しみ、場面の様子を想像しながら読もうとする。
○　登場人物の行動や会話に目を向けながら、場面の様子や気持ちを想像豊かに読むとができる。
○　物語を読み取る中で、言葉の使い方を理解し、「おはなしカード」に書くことができる。

4　評価規準

関心・意欲・態度	おとうとねずみチロの行動や場面の様子を想像しながら読んでいる。
読むこと	チロの行動や会話に目を向けながら、場面の様子や気持ちを想像しながら読んでいる。
	好きなところを選んだり、音読したりしている。
言語	物語を読み取る中で、主語と述語の関係に注意している。

5　指導計画（全１４時間）

	主な学習活動・内容	教師の働きかけ
第一次（２時間）①②	○全文の読み聞かせ後、初発の感想を書き、互いの感想を発表し合う。 ・「おはなしカード」についての理解 ・音読練習 ・新出漢字、カタカナの確認	・「おはなしカード」を提示することを通して、学習全体の見通しをもつことができるようにする。
第二次（７時間）③	○手紙を受け取ったときのチロの様子や気持ちを想像しながら読み、お気に入りの文を見付ける。 ・手紙の内容の確認	・動作化や書き込みをすることを通して、おばあちゃんから手紙をもらったときのチロの行動や会話に着目させる。
④	○「チョッキはない」と言われて不安に思うチロの様子や気持ちを想像しながら読み、お気に入りの文を見付ける。	・チロの気持ちを想像させるために、あわてて言い返すチロの様子を動作化させる。
⑤ （本時）	**○「いいこと」を思い付いたときのチロの様子や気持ちを想像しながら読み、お気に入りの文を見付ける。**	**・書き込みを通して、場面の様子を表す言葉に着目させ、チロとおばあちゃんの家との距離に気付かせる。** **・「声をはりあげる」などのチロの動きを動作化させ、チロになりきらせる。**
⑥	○チョッキが届いたときのチロの様子や気持ちを想像しながら読み、お気に入りの文を見付ける。	・「だあいすき」の読み方に気を付けさせ、チョッキを見たときのチロの様子や気持ちを考えながら音読させる。
⑦	○おばあちゃんにお礼を言うときのチロの様子や気持ちを想像しながら読み、お気に入りの文を見付ける。	・「大声でさけびました」に着目させ、チロの様子や気持ちを想像しながら音読させる。
⑧⑨	○「おとうとねずみ　チロ」のお気に入りのところを「おはなしカード」に書く。 ・お気に入りの文とその理由 ・「おはなしカード」の発表	・各場面で選んだ文をもとに、「おはなしカード」に記入させ、交流させる。
第三次（５時間）⑩⑪⑫	○教科書の紹介図書や教師の紹介図書から読みたい物語を選んで読み、お気に入りの文をノートに視写する。 ・お気に入りの文とその理由	・お気に入りの文、おもしろい文を見付けながら読むようにさせる。１冊終わるごとに、おすすめ☆と選んだ理由を記入させる。
⑬⑭	○読んだ物語のお気に入りの文を「おはなしカード」に書き、交流する。 ・自分で選んだ本の「おはなしカード」の推敲	・「おはなしカード」を書き終えたら推敲させ、グループで読み合い、気付きを伝えさせる。

6　本時案（５／１４）

(1) ねらい：　音読や書き込み、動作化を通して、いいことを考えたチロの様子や気持ちを想像しながら読むことができる。
(2) 準　備：　学習場面の本文、挿絵、ワークシート

(3) 展　開

Ｔ：主な発問　・：学習内容　○：教師の働き掛け

１　本時の課題を把握し、学習を音読する。
○　前時までの学習の内容をまとめたものを掲示しておき、学習の流れを確認する。
２　チロの様子や気持ちについて、ワークシートに書き込みをする。

Ｔ：チロになりきって思ったことや疑問に思ったこと、友達に聞いてみたいことをワークシートに書きましょう。

○　叙述から想像したことを言葉で表すために、思ったことがある叙述を**「赤線」**、疑問に思ったり、友達に聞いてみたいと思ったりした叙述に**「青線」**を引き、自分の思いをワークシートに書き加えさせる。　**【評価　ア】**
３　書き込んだ内容を交流する。

Ｔ：チロの様子や気持ちについて、考えたことを発表しましょう。

・疑問に思ったことの解決
・友達に聞いてみたいことの解決
・思ったことの交流
○　全体での交流の前に、自分の考えを伝える練習の機会として、ペアや３人組で交流させる。
　また、ワークシートに記した内容から、自分が特に、伝えたい内容を明確にさせるために、１つの内容を選択させ、印を付けさせる。
○　音読や動作化をさせることにより、チロになりきり、様子や気持ちを想像することができるようにさせる。
４　「おはなしカード」を書くことを通して、本時の振り返りをする。　**【評価　イ】**

Ｔ：今日のお勉強を振り返り、お気に入りの文を選んだり、おすすめ☆について、「おはなしカード」に書いたりしましょう。

○　交流したことを「おはなしカード」に生かすために書き込みをしたワークシートから、お気に入りの叙述を選択させ、カードへの記入を促す。

７　評　価

【評価ア】叙述をもとに、チロの様子や気持ちについて想像し、自分なりの読みをもつことができたか。（ワークシート）

【評価イ】交流したことをもとに、お気に入りの叙述を選択することができたか。（おはなしカード）

おとうとねずみ　チロ

もりやま　みやこ

いいことをかんがえたチロになりきって
おはなしカード　にかこう

そうだ　いいことをかんがえた
○とび出して
○どんどん　どんどん　はしって
・おばあちゃんに　おかのてっぺんの木から
つたえよう
・はやく　いいたい
・大いそぎで　いくよ

おばあちゃん・・・
○ひとこえ　よびました

おばあちゃん　おばあちゃん　おばあちゃ　あん・・・
○くりかえし　ひびきながら

ぼくのこえがとんでった　おばあちゃんちへとんでった
○うれしがって　とびはねると
○まえよりもこえを　はり上げて
・大きなこえでいうよ
・おばあちゃん　きいてね

ぼく　チロだよう

大きく口をあけ

ぼくにも　チョッキ　あんでね
○きえてしまうまで
○じっと耳をすまして
・おばあちゃんちまで　とどいてね

いちばん　だいじなこと

☆きょうのばめんのおきに入りの文

⑯	⑥
②	㉖
⑧	⑪

⑦	㉒
⑤	⑱
⑬	㉕

⑳	㉑
⑮	⑲
⑰	③
④	㉓

⑫	⑩
⑨	㉔
①	⑭

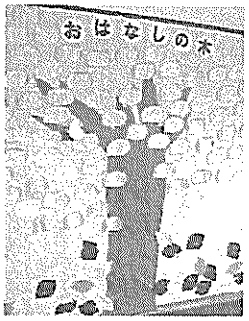
備考１

備考２

８　考察

視点①　進んで表現しようとする意欲を育てるための工夫

単元の導入時に、「おとうとねずみ　チロ」の他の章の読み聞かせを行い、題名あてクイズをしたり、挿絵を見せたりすることにより、単元全体への興味・関心を高めることができた。また、学習に対する見通しをもたせるために、学習計画を掲示し、「おはなしカード」について説明した。「おはなしカード」の記入は、単元を通して取り組んだ。その結果、お気に入りの叙述を選択して書く活動に慣れることができた。

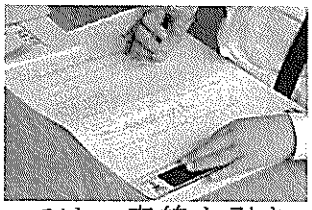


第二次では、学習課題にある「チロになりきって」考えることを意識付けるために、有田教諭が「チロになあれ！」と児童一人ひとりに魔法をかけるようにした。こうすることで、児童は大変喜び、「チロになりきって、音読しよう」「チロになりきって気持ちを書こう」などと張り切って表現活動に取り組むことができた。

第三次では、これまで単元を通して「おはなしカード」を継続して記入してきた経験から、自分で選んだ本を読み、短時間で「おはなしカード」を完成させることができた。

視点②　基礎・基本の定着を図るための工夫

基礎・基本の定着を図るために、書き込み、動作化などを取り入れるようにした。



本単元で、特に力を入れたことは、叙述に対する書き込みである。チロの心情や行動が分かる叙述に赤線を引き、チロになりきって、心情を記入させた。

また、疑問に思った叙述や友達に聞いてみたい叙述については、青線を引き、「なぜ、～したのだろう」「どうして、～したのだろう」というように、文章で書き込みをするようにさせた。

授業では、まず、一人学びの時間に、なかなか書き込みができない児童に声かけを行ったり、児童の書いた疑問（青線）を見取り、全体での話合いの場に生かしたりするようにした。このことで、徐々に児童が書き込む量が増え、少人数や全体での交流の場で、自分の考えを伝えることができるようになってきた。児童が考えたい内容を書き込ませることで、その中から教師が考えさせたい内容を精選することができ、学習内容に近づく課題とすることができると考えた。

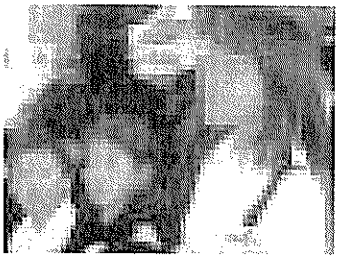
本単元で取り入れたいと考えていた動作化については、それにつながる叙述を取り上げ、チロがどのように動いたのか、実際に、全員で動きを考えるなど、具体的に指導をする必要があった。

視点③　仲間とのかかわらせ方の工夫

本単元では、一人学びで書き込みをした後、友達に伝えたい叙述と内容を選択し、伝え合う時間を設けた。このことにより、ペアや３人組の友達に自分の考えを伝えることができた。また、課題に対する互いの考えを伝える活動も行った。このことで、課題に対して、友達の考えを知ったり、自分の考えの修正をすることができた。また、課題に対して「分からない」ということを率直に話す児童も見られた。

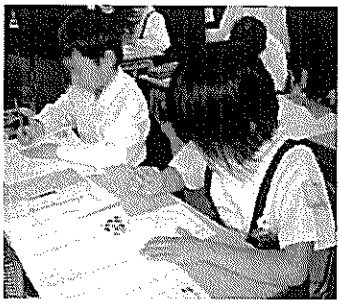
全体での話合いでは、疑問を出した児童に、他の児童と自分の考えを伝え合うという活動を取り入れた。その結果、「Ａくんが、教えてくれたから、分かった」

という児童の振り返りが見られるようになった。他の児童も、「Ｂくんに伝えたい」という気持ちで疑問について考える姿が見られた。このように、少しずつではあるが、児童間にあたたかい交流が生まれてきていると考える。



また、「Ｃくんに付け加えで…」「Ｄくんの考えに似ていて…」など、友達の考えとつないだり、比較したりしながら発言することができるようになってきた。

視点④　振り返り活動の工夫



振り返りは、本時の学習場面から、お気に入りの叙述を選択し、学習全体の振り返りを書くよう指導してきた。この内容だと、本時で学んだことや心に残った友達の意見を書くことが難しかった。そこで、児童には、「今日の学習で心に残ったことを書きましょう」と伝えた。以下は、児童が書いた振り返りの一部である。

・　青線と赤線を使ったら、チロの気持ちになってきました。大きな声で、チロになりきることができたよ。
・　ぼくの声がとんでったから、チロは、うれしかったんだね。だから、一番大事なことをぶち大きく言ったんだね。おばあちゃんに、聞こえただろうね。
・　チロの気持ちになったら、楽しかったよ。

このように、本時の課題に対して、「チロになりきって、楽しかった」と記している児童が見られ、叙述をもとにした振り返りをすることは、難しかった。やはり、「心に残ったこと」という漠然とした振り返りではなく、「お気に入りの文」と選択した理由という観点で振り返りを行うべきであった。友達と交流することを通して、高まった内容が児童の言葉として表現できるような「振り返り」にする必要があったと感じている。

９　受指導

(1) 学習の中で、大切にしたい部分を絞ること

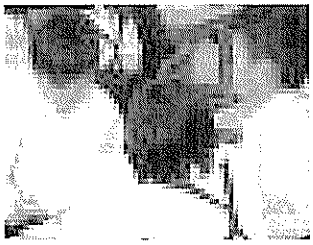
児童の青線（疑問）と教師の考えさせたいことが、児童の書き込みを見取り、生かすことで、リンクさせることができていた。学習の中で、話合いが立ち止まったとき、本文に戻ることをしていたが、大切なことである。

児童の発言と同じことを教師が重ねて言うのではなく、児童が自分の言葉で伝えるように、児童の発言をつなぐ支援がされていた。児童同士をつなぐことで、表現力を育てることができる。

(2) 「いいです」からの脱却

本時においては、「いいです」と児童が反応する場面が見られた。今後は、「いいです」と安易に反応しない児童を育てたい。発達段階に合わせて、「少し、違う」という率直な反応を出すことができるように指導していくことが、話合いを自分たちで深める力を育てることにつながるであろう。また、良い反応をした場合は、しっかりと価値付け、児童の中に浸透させていくことが必要である。

(3) ペアや３人組の活用



本時の学習の中で、児童は、ペアや３人組で話し合う学習の形態に変化させることができていた。

今後は、特に考えさせたい内容において、ペアや３人組による話合いを活用させたい。本時の学習の中で、教師が軽重を付け、選択する必要がある。軽重を付けることにより、時間に余裕が生まれ、全体での話合いの場において、児童への問い返しの発問をすることで、一層深い学習をすることができると考える。